

* 兄たちに会うヨセフ

ヨセフはエジプトの王様から全土の統治者に任じられた。その後、大飢饉が来たとき、ヨセフの兄たち 10 人がエジプトに食糧を買いに来た。ヨセフが、兄たちからエジプト行きの商隊に売られてから 20 年ほど経っていた。ヨセフは兄たちに会って懐かしさもあったが、兄たちのことを完全に信頼することができなかつたろう。兄たちが変えられていることを知りたかった。それでいくつかの難問（テスト）を出した。その一つは、兄たちにスパイ容疑をかけて、その潔白を証明するために末の弟ベニヤミンを連れて来い、という命令だ。もう一つは、ベニヤミンが来たときにベニヤミンに泥棒の濡れ衣を着せて、ベニヤミンだけをエジプトで奴隷にするから、他の者は食糧を持ってカナンに帰れ、という命令でした。これに対して、四男のユダは、自分がベニヤミンの身代わりになると申し出る。かつて、ヨセフを商人たちに売ることを提案したのが、このユダであった。それが、今度は、自分がベニヤミンの贖いの代価のように、身代わりになる、と言い切るのだ。これを聞いたヨセフは大声を上げて泣き出してしまう。

* 神のご計画を知る

45 章 5 節後半「神はあなたがたより先に私を遣わし、いのちを救うようにしてくださいました。」

ヨセフは、兄のユダの悔い改めや、自分が身代わりになる、と申し出る自己犠牲の愛に接し、今まで、はっきり分からなかった苦しみの意味を知った。これは自分の計画でも兄たちの計画でもなく、実に神のご計画であり、主なる神様からのエジプトへの派遣なのだ。困難の真ただ中にある時には、気付かなかつたが、今、イスラエル一族を助け出す「いのちを救う計画だ」と気付かされ、そのために自分が用いられたと知ったのである。

私たちは苦しみの中で祈り求める。しかし、そこにある主の深いご計画のすべてを知ることにはできない。そして、時には、自分に苦しみを与える人々に対して、苦々しい思いを持つこともあるだろう。しかし、苦しみの意味に気付かされる時、すべてが神様のご計画であり、私がそのために遣わされ、用いられたと知る時、不思議と苦々しい思いは雲霧がはれるように取り去られ、その苦しみの経験さえも感謝へと変えられるのではないだろうか。

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」（ローマ 8:28）今日も、いのちを救う神のご計画のために私たちは遣わされて行くのである。